

北秋田
市議会

全市民による乗車促進と 財政負担への理解が不可欠

内陸線存続で寺田知事と意見交換

乗車人員の減少に伴う慢性的な赤字で路線の存廃が大きな課題になっている秋田内陸線をテーマにした寺田典城秋田県知事と北秋田市議会議員の意見交換会が8月20日、北秋田市中央公民館で開かれ、知事と市議会議員が、同路線の赤字解消策などについて議論し、存続の可能性を探りました。

残したいが、利用者減、赤字を
どうクリアするか 寺田知事

秋田内陸線は、平成元年の開業当初107万8千人の乗車人員がありましたが、人口減少や車社会の進展



秋田内陸線の赤字解消策などで議論した市議会議員と県知事との意見交換会

により平成19年度は開業当初の半分の44万3千人まで落ち込み、廃止か存続かの議論が続けられています。

市議会では、昨年の6月定例議会でも秋田内陸縦貫鉄道存続特別委員会（原田醇一委員長）を設置し、現状把握、乗車促進への取り組みを行うとともに、6月定例議会本会議では同鉄道存続に関する決議を全会一致で議決し、これにもとづき6月20日には県知事や県議会に対し存続を求める要望書を提出しています。

一方で寺田県知事は、存廃について9月までには結論を出したいとしていることから、県知事の考えについて認識を深め、市議会としての取り組みにつなげることを目的

人は大きな数字。そのことを全住民が理解し、赤字解消につなげるシナテムが必要」発想の転換も必要。現在はまだ手を付けていないが、地元住民だけの利用でなく、県と市町村が連携して各市町村の県人会にお願いしてみるのも一つの方法」振興局を移転することは考えていないが、人口減少社会に対応するため施設を集中させることは都市計画の考え方の一つ」と回答。

また、内陸線の枕木は全線で1万8千本あまり。これを1本1万円で購入してもらい基金を作っては「内陸線の無人駅の駅長を全国から募集しては」といったアイデアも出され、寺田知事も、いろんな夢、発想を赤字解消につながるよう具体化してほしいと歓迎していました。

一方で、阿仁から鷹巣に引越す人がいるなど高齢化や相次ぐバス路線の廃止などで生まれ育った地域で暮らすことが難しくなってきたという実態がある。内陸線を幹にして、枝になる部分を整備しないと住み続けられないようだ」と、過疎・高齢化による深刻な集落の実態について県の考えを問う質問もありました。

寺田知事は、「定期路線バスについても、今後どの地区を残していくか、

として開催したものです。

意見交換会には、市議会議員と県知事ほか、岸部市長、藤田了次地域振興局長、県建設交通部交通政策課長、秋田内陸縦貫鉄道株式会社竹村寧専務、津谷永光県議会議員、市の関係者など約60人が出席。

はじめに寺田知事は、内陸線沿線には交通弱者が多く、公共福祉のためにも残したいが、利用者減や赤字という現実をどうやってクリアするかが問題。内陸線は北秋田市や仙北市だけの問題ではなく県全体として取り組むべき課題。しかし、相当のエネルギーを注ぎ、将来にわたり力を出し切らない限り存続は難しい」との考えを示しました。

内陸線の存続には膨大な
エネルギーが必要

意見交換に先立ち、市の担当者が、今年度に入ってから沿線自治体での主な取り組みや内陸線の経営状況を報告。

この中で、北秋田市及び仙北市の職員の通勤定期利用により、5月と6月は前年比でほぼ倍増したことなどを述べるとともに、県や市、会社などで構成する秋田内陸鉄道研究会が

まとめた、内陸線存続に向けたポイントとして、内陸線の存続には膨大なエネルギーが必要。県、市、議会、住民等がその覚悟を共有できるか）経常損失の最終目標は1.5億以内だが、当面3年後を目標に、利用者60万人以上、損失2億円以内を目指す。そのためには恒常的な乗車運動による活用促進が不可欠、といったポイントについて説明しました。

まず利用者を60万人に増やし、2億円の赤字解消を

意見交換では、市議会側から、存続運動も、将来にわたり長く続けるといずれ息切れしてしまう。発想の転換が必要。たとえば、大野台工業団地、北欧の杜公園、市民病院などにつながる支線を引き、恒常的な利用者を増やすことはできないか、公共機関を一カ所に集中させることが利用増につながる。地域振興局を市民病院などが立地する予定の大野台に持つてこられないかといった意見や提案が出されました。

これに対し寺田知事は、「お願い」だけでは現実味がない。存続には現在の40万人を60万人に増やさないと2億円の赤字はなくなる。60万

「やる気」と「本気」をアピール

330人が参加、内陸線の必要性を秋田県民、県知事に訴え
北秋田市と仙北市の住民や支援団体約330人が8月25日、秋田市で集会や行進を行い内陸線の必要性を訴えました。

参加者は、内陸線とバスを乗り継いで秋田駅前アゴラ広場に集結。はじめに内陸線存続アピール行進実行委員会の佐藤信夫委員長が、存続アピール行進は県民に理解いただけるものだと思ふ、また秋田内陸縦貫鉄道を守る会の鈴木定平会長が、9月の知事判断に最後の訴えをしたい」とそれぞれ決意を述べました。



秋田市内で存続を訴えた北秋田、仙北両市民らによる内陸線存続アピール集会・行進

この後参加者は、内陸線存続アピール行進の横断幕を先頭に時折雨に打たれながら県庁に向かいました。県庁では寺田知事や県議会各派代表に存続の要請文を手渡しました。

知事は、重い荷物を背負って将来に進むことになる。また、住民の力は無限にある。その力が存続を成功させると思う」と運動の継続に期待を寄せました。県議会代表からは、内陸線の将来を共に知恵を出して考えたい、など支援のことはをいただき、また、地元選出の津谷永光議員と門脇光浩議員から、知事、議会、県民に存続の思いが伝わった。今日の行動をスタートに、共に頑張ろう」と激励を受けました。最後に参加者代表が知事や県議会に存続を強く訴えたことを報告し、今後の乗車運動の継続を満場の拍手で確認しあって県庁を後にしました。